

月刊 **生産財マーケティング** 2023 **9**

第60巻 第9号(通巻722号)
2023年(令和5年)9月1日発行(毎月1回1日発行)
ISSN 0911-9817

編集発行
ニュースダイジェスト社
<http://www.news-pub.co.jp>
定価1,210円(本体1,100円+税10%)

設備財を中心とするR&D情報誌

特集

驚きのスゴ技



カタチをささえる
BIG
BIG DAISHOWA

世界はカタチで満ちている
未来のためのカタチを作ろう
カタチをささえる工具の会社
BIG DAISHOWA



MC、複合加工機
CNC旋盤用
トータルツールリンクシステム

MECT 2023
メカトロテックジャパン 2023
MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN
ポートメッセびんご
第2展示館 2D08

自動車・航空機・建機・船舶・エネルギー関連・IT産業と、あらゆる産業のモノづくりに BIG のツールリンクはお応えいたします。

大昭和精機株式会社 **BIG DAISHOWA Japan** 株式会社



人に **知恵**
現場に **技** 199
マイワークス



代表者: 高瀬拓治社長
従業員: 32人
本社: 愛知県一宮市春明字神宮46
TEL: 0586-76-5215
www.myworks.co.jp



加工屋の目線で技術提案 女性活用やSDGsにも注力

専用機向けの各種部品の製作を担うマイワークス(愛知県一宮市、高瀬拓治社長)。1カ月で取り扱う図面枚数は約2万枚にも上り、「超」が付くほどの多品種少量生産だ。単に図面通りに物を作って納めるだけではなく、顧客の専用機メーカーに対して加工屋の目線から技術提案をすることで、同業との差別化を図る。人材の採用や育成にも意欲的で、女性社員の活用や、リクルートも見据えた持続可能な開発目標(SDGs)の推進にも力を注ぐ。

「カーボンニュートラル(CN)」って?

二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにすること。「炭素中立」とも呼ばれる。マイワークスは電力事業会社の日本テクノ(東京都新宿区、馬本英一社長)のCO₂フリー電力を購入したり、電力消費量を可視化できる「スマートクロック」(=写真)などを導入し、CO₂排出量の削減に努める。



■ 前ページの写真

- ① 昨年5月にしゅん工した組み立て専用の新工場
- ② 田畑や住宅地に囲まれた場所に位置するマイワークスの本社
- ③ 社員教育の一環で取り組む朝の勉強会
- ④ 倉敷機械の横中ぐりフライス盤も設備し溶接構造部品の加工などを担う

「部品加工の目線から
お客さまに技術提案を
します」

(高瀬拓治社長)



月2万枚に上る図面枚数

マイワークスは専用機や食品包装機械などの部品加工を担う。専用機は基本的に顧客ニーズに合わせて一品一様で製作されるため、同社が手掛ける部品も1個、2個単位の小ロットがメインだ。ワークの品種も多岐にわたり、1カ月で取り扱う図面枚数は平均で約2万枚に上る。

同社の強みは材料の手配から機械加工、溶接、表面処理まで一貫して受注できる体制にある。100社を超える協力会社のネットワークを構築しており、受注内容に合わせて自社工場も含めた最適な加工先に依頼することで、顧客のさまざまな要望に一気に通貫で対応する。

自社工場にはヤマザキマザックの立形マシンニングセンタや倉敷機械(新潟県長岡市、安川洋社長)の横中ぐりフライス盤などを設備。「内製比率は2割ほどだが、多岐にわたる顧客ニーズに柔軟に答えられるよう、バラエティーに富んだ機械をそろえた。お客さまにはわが社を「自社工場の一つ」として活用してほしい」と高瀬社長は述べる。同社は特に、専用機のフレームに使われる溶接構造部品の機械加工を得意とする。図面通りの精度で客先に納品するには、前工程の溶接段階で生じた熱ひずみなどの影響も総合的に考慮した上で加工する必要があるという。

最近では専用機の開発プロジェクトに設計段階から参画し、部品加工を担う立場として技術提案をする機会も増えた。「良い物を早く、安く作るだけでは同業との差別化を図れない。そのため、自社工場を持たないファブレスのお客さまなどを対象に、加工屋の目線から技術提案をすることで信用獲得につなげたい」と高瀬社長は語る。

同社は顧客の要望に常に応え続け、その結果として現在の生産形態や協力会社ネットワークを築いた。今後は部品加工だけではなく、組み立ても内製化する構えで、その一環で昨年5月には約440㎡の組み立てに特化した新工場をしゅん工した。高瀬社長は「従来は部品加工に特化してきたが、『組み立てもやってもらえないか』との要望

を受け、新領域への挑戦を始めた。ゆくゆくは加工から組み立てまで一手に引き受けられる体制を構築したい」と意気込む。

勉強会で社員教育

同社の生産形態は「超」が付くほどの多品種少量生産なため、工程管理が複雑になりがちだ。これに対し、現場では10人以上の女性社員が営業や工程管理として、顧客との折衝や納期調整を担う。女性社員は全従業員3分の1以上を占め、しかも営業課長5人のうち3人が女性だという。女性社員のほとんどは製造業の未経験者で、「ボルトとナットの区別も付かない状態で入社する」と高瀬社長は話す。

だが、顧客と折衝したり、加工技術を提案するには、深い知識が必要不可欠だ。そこで同社は社員教育の一環で、朝の時間を利用した勉強会を定期的に開催する。社員がローテーション制で講師役を務め、自作のテキストを使って工作機械や加工技術の基礎知識を指導する。

また、SDGsの推進やCNの達成にも意欲的で、最近では電力消費量の可視化などに力を注ぐ。「SDGsやCNは新入社員のリクルートにも有益。最近の学生はSDGsやCNに関心が高く、中小製造業が今後も安定的に人材を確保するにはこうした取り組みも欠かせない」と高瀬社長は強調する。

(桑崎厚史)

取材記者より

高瀬社長に工場や事務所を案内してもらった際に、朝の勉強会で使う自作テキストも見せてもらった。フライス加工や旋削といった基礎的な内容だけではなく、熱処理や溶接などの切削加工以外のテーマの解説も充実しており、その完成度の高さに驚いた。自作テキストの情報量の多さから、マイワークスの人材育成への熱意を感じ取った。